

令和元年度 奈良大学附属高等学校 学校評価総括表

学校運営方針	学園創立100周年に向け、高大接続を中心に据え、安定と存続を念頭におきながら一人ひとりを大切にしながら確かな教育を実践する学校をめざすとともに、『学校経営グランドデザイン』を基盤にし、『FURTHER CHALLENGE』を合言葉として、「求める生徒像」を共有しながら組織の一員としての自覚と責任と誇りをもって教育活動を推進する。		総合評価
昨年度までの成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>◆成果 これまで本校では、『建学の精神』を体するとともに不易と流行を心得、充実した施設設備を最大限に活用して、特進、文理、標準それぞれのコースの特徴を生かし生徒の実態も見据えながら創造的で独創的な取組を重ねてきた。「生徒一人ひとりを大切にしている学校」、「部活動や国際交流が盛んな学校」、「基本的生活習慣が身についた生徒が多い学校」というイメージの定着と各種広報活動が奏功し、少子化傾向が進行する中にあっても毎年、募集定員を充足している。</p> <p>◆課題 教員はそれぞれの力量を発揮して教育実践に勤しんでいる。学校としてめざす方向性(「めざす学校像」「めざす教師像」「求める生徒像」)を共有することにより「組織」としての協働意識も定着しつつある。生徒は真面目で規範意識に基づいた行動をとることができる。ただ、成功体験に乏しく自尊心をもてない生徒や特別な支援が必要な生徒も在籍していることから、学校全体としての共通理解に加えて組織的・計画的な取組が求められる。</p>	<p>1 学校経営目標の実現</p> <p>(1) 豊かな人間性を養う教育(徳育)の推進</p> <p>(2) 確かな学力を養う教育(知育)の推進</p> <p>(3) 健全な精神と健康を養う教育(体育)の推進</p> <p>2 外部との連携強化及び情報発信の充実</p> <p>3 学校改善のための学校評価の一層の充実</p>	<p>○自律自誓の精神を涵養する ・自己の言動への責任を自覚させる。 ・自己を律し、課題を解決する習慣と努力を促す。 ・自らを省みる時間を大切にすることで、自律自誓の精神を養う。</p> <p>○総合的な人間力を育成する ・人権尊重の精神と生命への畏敬の念を深める。 ・自分だけでなく他者をも思いやり尊重する態度と他者と協調する態度を身につけさせる。 ・キャリア教育や社会貢献活動等をとおして社会の一員であることを自覚させ、自尊感情を高める。</p> <p>○生徒と授業を大切に ・授業で勝負する姿勢を堅持し、生徒一人ひとりと向き合う。 ・授業研究と創意工夫により学びの質を重視した授業改善に努め、生徒の心に火をつけるような授業をめざす。 ・新学習指導要領の実施を控え、改訂の基本的な考え方を理解し、カリキュラム・マネジメントに努める。 ・主体的・対話的で深い学びやICT活用などの授業研究に取り組むとともに、積極的な授業公開に努める。 ・『哲学対話』の導入によって「問い・考え・語り・聞く」スキルと論理的思考力を身につけさせる。</p> <p>○基本的生活習慣を確立させる ・食事、運動、睡眠などの基本的生活習慣を重視する。 ・敬意と親愛と感謝をこめた明るい挨拶を心がける。 ・凡事徹底を旨るとともに、規範意識の向上に努める。 ・健康を保持し、危機回避能力を身につける。 ・いじめを許さない気風を醸成する。 ・部活動や体育の授業だけではなく、自らの生活の中に体力向上をめざした運動の習慣を確立させる。 ・式典時の校歌斉唱や部活動応援などをとおして学校への帰属意識や愛校心を培うとともに、奈良大学附属高校生としての誇りと自覚を高める。</p> <p>○「地域と共にある学校づくり」を推進し、地域行事への参加や諸機関・施設との連携を強化する。 ○ホームページやオープンキャンパスなどの充実、学校行事や活動成果の積極的な情報発信により、中学生やその保護者、ひいては広く県民に対し本校の魅力を伝え、効率的・効果的な広報活動を展開する。</p> <p>○学校改善に向け、生徒・保護者・教職員及び法人関係者が一体となった取組みを展開する。 ○月1回の「理事長・高校協議会」を更に充実させ、学校改善へとつなげていく。 ○学校関係者評価を充実させるため、学校関係者評価委員を委嘱するとともに、第三者評価にも踏みこんで学校改善に資する。 ○各種校務・事務の効率化、見直し、改善により、「働き方改革」を推進する。</p>	

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価	成果と課題
総務部	校内美化の推進	校内を美しく保つ。	本校は中学生の模擬試験会場に設定されることが多いことから、生徒募集につながることを強く意識し、校内美化に取り組む。水曜・金曜のホームルーム教室以外の場所の清掃を、担任と学年係が連携して組織的に行う。		
	普通教室の整頓	すべての普通教室を、同じ環境に整える。	可燃物・不燃物・ペットボトル用のごみ箱、傘立て、本棚、ほうき・ちり取りをはじめとする清掃用具を適切に使用するように指導する。上記の「構内美化」を強く意識し、教室の整頓を指導する。		
	研修旅行の円滑運営	今年度から来年度への接続を円滑に行う。	来年度から研修旅行を担当する旅行会社が変わるコースがあるため、引継ぎや要望を丁寧に行う。これまでのクオリティを下げないように、学校側との窓口として、旅行会社と質の高い調整を行う。生徒・保護者に適切に案内・事前指導することができるように当該学年をサポートする。		
	防災への取組	防災意識の向上を図る。	奈良県のシェイクアウト行動と連動して、防災訓練を行うだけでなく、内容の充実を図る。防災設備や行動についての知識を深める。災害発生時、第2次避難所になることを強く意識し、準備をする。		
	山陵祭の運営(文化祭・体育祭)	生徒が活躍することができる環境を設営する。	生徒会指導部・保健体育部・生徒指導部をはじめとする各部と連携し、準備や片づけを効果的に行う。生徒の安全確保を最優先する。		
	学校評価の実施	学校関係者評価の充実と第三者評価の導入。	学校評価制度の円滑な運営に努める。		
教務部	教育課程再編に関する取組	新学習指導要領に基づく本校の教育課程の変更に向けた準備を行う。	①各学期ごとにカリキュラム委員会を開催する。 ②県が主催する学習指導要領に係わる研修や各研究団体主催の研究会には積極的に参加する。 ③総合的な探究の時間を計画・実施する。(第1学年)		
	授業改善と教員の資質向上	カリキュラムマネジメントを見据え、本校教員の資質向上ならびに授業改善を図る。	①公開授業の積極的実施を促す。 ②授業やホームルーム活動でのICT活用を促進する。 ③『シラバス』を発行する。		
	学校業務の円滑化	授業、学校行事、その他の教育活動が円滑に実施されるための調整・支援を行うとともに、改善に向けた点検も怠らず行う。	①各部・各学年・各コースとの連携を図る。(会議や研修等による情報共有) ②『教務部年間実務表』にもとづき、教務業務をスムーズに計画・実施する。		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価	成果と課題
生徒指導部	基本的生活習慣の確立と凡事徹底	六つの観点からの指導を実施する。 ①服装・頭髪に関する指導 ②時間に関する指導 ③登下校に関する指導 ④挨拶・言葉遣いに関する指導 ⑤環境美化に関する指導 ⑥携帯電話・ネットリテラシーに関する指導	①月一回の頭髪指導日を活用しながら、奈良大学附属高校生としてあるべき身だしなみを啓発する。		
			②年間遅刻回数を2,000回以内に留める。また各学期にノーチャイムDayを設定し、時間を管理する習慣を身につけさせる。		
			③通学路や付近のコンビニ、および公共の交通機関等の利用に際して、ルールやマナーを意識させ、社会性を身につけさせる。		
			④校門指導では個別指導、全校集会の際には全体指導を行い、爽やかなコミュニケーションを心がけさせる。		
安心・安全な学校作りへの取組	三つの領域での学校安全を確保する。 ①生活安全 ②交通安全 ③災害安全	①警察や地域の連絡会、また青少年協議会等との連携を通じて、不審者情報などを集約し、生徒の安全な生活を確保する。			
		②自転車通学生には安全講習会を実施すると共に、全校生徒に対しても警察の交通課から講師を招聘し講演会を実施する。			
		③避難訓練に積極的に協力し、平素から防災への意識を高めると共に、災害発生時には生徒の安全確保を最優先する。			
教育相談体制の充実	不登校傾向のある生徒、及び配慮を要する生徒に関する情報収集と対応協議を行う。	担任、コース長、学年主任、養護教諭、教育相談担当者、カウンセラー等との連携を強化し情報を共有する。そのために教育相談連絡会を定期的開催する。			
職員研修の実施	個々の教員の生徒指導力向上のための研修を実施する。	生指協で得た情報の伝達も含め、各学期に1回のOJT(現職研修)を実施する。			
人権教育部	人権感覚の醸成	生命の尊重、人権の尊重を本校教育の中核に据え、教職員が豊かな人権感覚を身につける。	教員の全体研修を年1回は実施し、高人教、私学人推協主催の各種研修会にも積極的に参加する。		
	人権意識の向上	ホームルーム指導等とおして生徒の人権意識を高める。	①人権教育に関する映画等の鑑賞会を年1回は実施する。 ②校内一斉の人権ホームルームを年2回、組織的・計画的に実施する。人権作文の課題だけではなく、様々な教育活動をおして人権尊重の意識を醸成する。		
	進路保障への取組	進路指導部と連携し、進路保障への取組を推進する。	①受験・就職選考にかかわって不適切な事象に対応する。 ②各種奨学金の紹介、受付及び指導を行う。		
	人権啓発	生徒の自主活動を支援し、保護者への啓発を図る。	人権研究部の活動を促進し、啓發文書を年3回発行する。		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価	成果と課題
保健体育部	保健教育の充実	健全な精神と健康を養う教育を推進する。	基本的な生活習慣を確立させる指導を徹底し、ルールやマナー、時間を守るなど、規範意識の向上に努める。 他の部署とも連携し、健康保持・危機回避能力を身につけさせる。保健の授業においても、「がん教育」をはじめとして予防医学や健康に関する知識理解を深める指導を行う。		
	体育教育の充実	基礎体力の向上を図る。	毎時の授業の中に体づくり運動を取り入れ、継続的に行っていく。		
		体操服のリニューアルを計画する。	生徒へのアンケートや教員へのヒアリング、また、県内外を問わず他校の実態をリサーチし、関係業者とも協議する。		
		体育施設の改修と行事の見直しを行う。	移転後20数年が経ち体育施設の老朽化が目立つ。施設の改修とともに将来的には体育教官室の新設を計画し、機能の強化を図りたい。また、体育的行事についても、時代とニーズ、学習指導要領を踏まえた改善を図る。		
部活動の充実	部活動の活性化を図る。	部活動において積極的な指導を行い、競技力の向上と人間力向上に努める。また、他競技、他教員とのコミュニケーションを密にし、体育部活動総会を行う。			
進路指導部	奈良大学との連携	奈良大学との連携を強化し奈良大学の魅力を発信する。 (奈良大学合格目標:70名)	奈良大学ガイダンスの充実(参加者70名目標)、施設の共有及び特別進学制度の改善に向け、大学と協議を重ねる。		
	計画的・系統的な進路指導の推進	体系的な進路指導を推進するとともに、大阪電気通信大学との連携強化を図る。 (合格目標 国公立:8名 関関同立産近甲龍:80名) eポートフォリオの啓発・指導に努める。	①受験対策としての放課後の講習及び高3進学講習を継続して実施する。		
			②校内・校外模試・小論文講習・英検対策講習・TOEIC対策講座(英語講座2クラス目標)を企画立案し実施する。		
			③生徒の志望に応じた個別講習(個別指導)を実施する。		
			④進路説明会・進学ガイダンスを計画・実施する。 模試分析会を実施して指導に活かす。		
	キャリア教育の推進	『キャリア教育計画表』を策定する。	「キャリア教育全体計画」の見直しを行う。 各部、各学年、各コース別の「キャリア教育年間指導計画」を作成してもらい、進行管理を行う。		
進路情報の迅速な発信	ペーパー資料だけでなく、ICTを活用した情報発信に努める。	Classiを有効利用する。 新入生に発行する「進路の手引き」の充実を図る。			
学力の3要素を意識した指導	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等、学力の3要素を意識した指導に努める。	学びの質を重視した授業改善を図る。 「探究活動」を積極的に導入する。			
大学入試改革への対応	入試情報の収集と周知に努める。	様々な機会をとらえて入試情報を収集し、職員会議やOJTをとおして周知し、Classiを利用して共有を図る。			

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価	成果と課題
文化図書部	図書館の活用と 読書啓発	読解力・思考力を養うために も、読書活動を啓発する。	①国語科と連携し、「国語総合」の時間に新入生を対象としたオリエンテーションを実施する。図書館利用、読書の効用等について指導する。		
			②図書だよりを毎月発行し、読書活動を啓発する。図書委員にはお勧めの本の原稿を書かせる。		
			③秋の読書週間には、図書委員に「読書啓発ポスター」を作成させ、各クラスに掲示する。		
			④夏期休業中の課題として読書感想文を課し、優秀作品はコンクールに出品するとともに学校長表彰の対象とする。		
			⑤読解力の向上と読書活動推進のために読後のポップ作成やレポート作成を促し、その作品を図書館に掲示し、学校長表彰の対象とする。		
	レファレンスに力を入れ、総合学習・探究や授業の中で、蔵書を活用していく。	①利用者が求める資料を確実に検索・提供できる準備を行う。 ②探究活動の一助となるような資料本の提示を行う。			
国際交流部	国際交流の推進	現在の国際交流活動を継続するとともに、より活性化させていく。外国との相互理解や友好親善に寄与する意識を持ち、自国についての理解を深め、多様な活動経験や知識を拡げ、国際的リーダーとして成長できる人材の育成をめざす。	①オーストラリア校の受け入れを継続し、説明会を開いて、バティ生徒へのサポートを強める。		
			②オーストラリア以外の訪問団の受け入れも積極的に行う。		
			③奈良ロータリークラブとの関係をさらに充実させ、交換留学制度を継続させる。		
			④姉妹校の交換プログラムを改善する方法を検討する。まず、プログラムへの関心をさらに高めた後、ディクソンカレッジの担当者と詳細を話し合う。		
			⑤SNSのページを作成し交流活動の様子を随時更新し、発信していく。		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価	成果と課題
生徒会指導部	体験活動と社会貢献	保育体験活動の充実と、社会貢献活動への積極的な参加を促す。	①奈良大学附属幼稚園での保育体験活動を通して、自他を尊重し、主体的に行動する力を養う。(年2回の実施)		
			②子ども服を難民キャンプへと送る活動を通して、世界を考える機会とする。(7月～11月まで)		
			③地域の社会福祉施設との交流を通して自他を尊重する力を養う。(年1回以上の実施)		
	生徒の主体的活動の充実	行事や部活動への積極的な参加を促す。	①山陵祭(文化の部・体育の部)などを通じて、生徒自身が主体的に学校行事や生徒会活動に取り組む場面を作り、連帯感や自己有用感を高めるよう支援を行う。		
②各部活動の積極的な取り組みを通して、学校を活気あるものにする。					
	委員会活動を活発化させる。	生徒会役員と各委員会が連携をとりながら、各学期に一回以上の委員会活動に取り組む。			
入試・広報部	入学定員の充足	募集定員を確保し、安定的な学校運営に資する。 (入学者目標:280名以上)	推薦及び専願受験生の合計が募集定員の2/3以上となるよう、中学校及び塾訪問の強化等、様々な手立てを講じる。また、併願受験生の一層の取り込みを図る。		
	入試関連行事の運営	オープンキャンパスと入試説明会の戦略的運営を行う。 (OC参加者目標:計500名以上) (説明会参加者目標:950名以上)	中学校、塾への事前案内及び周知徹底と動員要請を行う。 ポスター等の掲示依頼、HPを通じた情報提供を行う。 PTAの学校訪問時、保護者に直接案内を行う。		
		個別相談会に参画する。 (面談者目標:100組以上)	個々の状況を丁寧に聞き取ることで、具体的に受験者数増加につなげる		
	中学校PTA等学校見学会の受け入れ	学校見学会を受け入れ、本校の魅力を実際に見て知ってもらう。(目標来校数:10校)	県内各中学校に見学会の案内文書を送付する		
	入試業務の効率化	Web出願を導入する。	web出願の導入により、入試事務の効率化を図る。		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
情報部	公的デジタルファイル(データ)等の作成・管理・配信	教育・事務関係の職務が滞りなく迅速に進められるように、デジタルファイル(データ)の作成・管理・配信を行う。また、公的メールの管理を行う。	校務関係のデータにアクセスを用い、教育(成績等)・事務・入試・進路等の処理・管理を行う。また、公的デジタルファイル(データ)等の作成を行う。校納金、就学支援金等のお知らせ、気象警報、各月の予定、その他について、生徒・保護者へ一斉メール配信を行う。公的メールの確認・管理・配信を行う。			
	各行事における準備・進行	学校行事のみならずコース・学年・クラス等における行事及び授業などに必要な機器の準備(ICT機器等)に対応する。	Wi-Fi教室における、ICT機器を使った授業展開に必要なパソコンの設定、各種機器の準備などを行う。視聴覚教室は多人数を収容できるため、クラス単位での行事が多く、適宜、パソコン等のICT機器の準備を行う。			
第1学年	生徒指導	一人ひとりを大切に生徒理解に努める。	毎学期、必ず2者面談を行う。また、スクールカウンセラーとも連携し、教育相談の手法を生かして生徒への支援を行う。			
		教員と生徒のコミュニケーションを通して信頼関係を構築し、生徒支援を充実させる。	授業の中で積極的に教員と生徒がコミュニケーションをとれるように創意工夫をする。また、ICTを活用することで、休み時間や放課後といった時間に生徒と関わる時間を増やす。			
		教科指導、学校行事、部活動等全ての場面で人格形成を目的とした活動を実践する。	教師自身が目標を持ち、生徒たちのロールモデルとなるよう、毎日生き生きとした職業生活を送る。そのために各種研修に積極的に参加し、自身の知識技術向上に努める。			
第1学年	人権教育	生徒の人権感覚を育み、豊かな人間性を身につけさせる。	・校内一斉人権HRを実施する。 ・デートDV防止講座を実施する。 ・自己を認め、他者を理解するためのHRを毎学期に1度は実施する。 ・人権教育は日常的であるべきこと。生徒と触れ合うだけでなく、教師間同士でも高め合う。			
	進路指導	キャリア教育を通じて、早期から個々のニーズに応じた進路指導をきめ細かく行う。 奈良大学との連携を深め進路選択の為の材料を与える。	総合探究の展開に合わせ、生徒が自発的・意欲的に学習に取り組めるように、ICT活用教育を積極的に取り入れる。また各コースの進路に応じた進学講習を週3回実施する。さらに、月に1度の学年主任会を実施することで学年間で情報を共有し、生徒達へ還元する。 生徒のみならず、教員も奈良大学の施設利用やオープンキャンパスに積極的に参加する。			

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
第2学年	人権教育	生徒の人権感覚を育み、豊かな人間性を身につけさせる。	校内一斉人権HRを実施する。 人権教育講演会を実施する。 在日外国人問題に関するHRを実施する。 研修旅行の事前学習として、オーストラリアを題材に、先住民や文化歴史に関する研修等を実施する。冊子の発行や、年度末に実施する第一学年の生徒を対象とした報告会でのプレゼンなどの事後学習を実施する。			
	進路指導	キャリア教育を通じて、早期からそれぞれの生徒に応じた進路指導をきめ細かく行う。	入試制度の変更に对应すべく、進路指導部とも連携して教員研修の機会を持つ。 Classi等のICT活用教育を積極的に推進し、生徒が自発的意欲的に進路決定に取り組む意識づけを行う。 総合学習での奈良大学利用や、ガイダンスへの参加のほか、オープンキャンパス等に生徒だけではなく教員も参加する。 各コース、進路に応じた進学講習や小論文講習を実施する。			
		優秀な生徒を奈良大学へ進学させるとともに、同大学への進学者数も増やす。				
		奈良大学との連携を深めるために、生徒向けガイダンスへの参加も含め、教員が奈良大学の魅力を知る機会を増やす。				
	生徒指導	社会に生きる一人としての自覚をもたせる。	研修旅行の実施も見すえ、朝学習や遅刻指導をとおして規律を守り、かつ主体的に学ぶ姿勢を身につけさせる。また、遅刻数を3割減少させる。 校歌指導により、自尊感情を高め、本校生としての誇りと自覚を持たせる。 学校生活において生徒だけではなく、教員も明るい挨拶を心がける。			
		自主自律の精神をもつ生徒を育成する。				
		学年団だけではなく、各教科を通じて、一人ひとりに配慮したきめ細やかな指導を実践する。				
	学年運営	学校行事や特別活動も含め、日々の学校生活を円滑に運営していくため、各関係各部と連携を密にし、学年業務を運営する。	Classiの活用により、情報を迅速に共有し、業務を円滑に進める。 学年主任会を月一度実施し、各行事を含め次年度への改善につなげる。			
		引継ぎも含め、他学年との連携を強める。				

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価		成果と課題
第3学年	人権教育	生徒の人権感覚を育み、豊かな人間性を身につけさせる。	校内一斉人権HR、人権教育講演会を実施する。近畿統一用紙の意義を通じて、進路と人権を考える。ネットリテラシーに触れ、知識基盤社会を生き抜く人材を育成する。人権教育は日常的に行うものであること。生徒だけではなく、教師間でも人権感覚を高めあう。			
	進路指導	キャリア教育を通じて、早期からそれぞれの生徒に応じた進路指導をきめ細かく行う。	ICT活用教育を積極的に推進し、生徒が自発的意欲的に取り組む意識づけを行う。奈良大学ガイダンス、オープンキャンパスなどに生徒だけではなく教員も参加する。各コース、進路に応じた進学講習、小論文講習(10回)、TOEIC講習(10回)を実施する。キャリア教育は日常的であるべきこと。生徒と触れ合うだけでなく、教師間同士でも高めあう。			
		優秀な生徒を奈良大学へ進学させるとともに、同大学への進学者数の増加を図る。				
	生徒指導	ガイダンスや高大接続会議等を通じて奈良大学との連携を深め、教員も奈良大学の魅力を知る機会を増やす。	目標合格人数 奈良大学:70名 国公立大:8名 関関同立・産近甲龍:80名			
社会に生きる一人としての自覚をもたせる。		ジェネリックスキル(社会人基礎力)を身につけさせるべく朝学習や日々の授業を通じて規律を守り、かつ主体的に学ぶ姿勢を醸成する。校歌指導により、自尊感情を高め、本校生としての誇りと自覚を持たせる。学校生活において生徒だけでなく、教員も明るい挨拶を心がける。欠席・遅刻者数は前年比3割減を目指す。				
学年運営	自主自律の精神をもつ生徒の育成をする。		Classiの活用により、情報を迅速に共有し、業務を円滑に進める。月に1度の学年主任会を実施し、各行事を含め次年度への改善につなげる。			
	学年をとおり、一人ひとりに配慮したきめ細やかな指導を実践する。					
学年運営	行事や特別活動も含め、日々の学校運営を円滑に進めるため、各関係各部と連携を密にし、学年業務を運営する。	引継ぎも含め、他学年との連携を強める。				

【項目ごとの評価】学校自己評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:少し課題を残している D:課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価	成果と課題
標準コース	生徒指導	規範意識を身に付けさせる。授業を大切にする姿勢を身に付けさせる。	①ホームルーム活動を充実させ、日常的な声かけに加え、二者・三者面談などの場を積極的に活用する。 ②担任だけでなく、複数の教員で適材適所で関わっていくことで生徒を困いながら指導していく。		
	学習指導	目的意識の明確化とけじめのある授業により、基礎学力の定着と向上を図る。	①小テストや課題学習など、授業の工夫で学習に向かう生徒の意識を継続させる。 ②ICT活用教育を推進し、教科学習及び総合学習・探究においてグループ学習・調べ学習を積極的に導入する。		
	進路指導	生徒のニーズに合わせた進路指導を心掛ける。	①奈良大学ガイダンスへの参加を促す。また、オープンキャンパスへの参加を早い段階で行うように指導する。 ②個別指導を充実させ、生徒の適性や学力に応じて指導する。		
文理コース	生徒理解・指導	生徒の多様性に応じた指導を実践する。教師陣と保護者が連携するなか、生徒の規範意識を確立し、他者理解や思いやりの心を育てる。	①日常的な声かけはもちろん、必要に応じて2, 3者面談や家庭訪問を積極的に行い、生徒理解と保護者との協力体制構築に努める。進路変更者の絶無に向けて取り組む。 ②関係教諭や生徒指導部、必要に応じて養護教諭、スクールカウンセラーとも連携を密にし、教育相談会等を通じて心身に問題を抱える生徒への支援に取り組む。 ③TPQでの適切な言動を指導する。また、清掃活動や防犯教育等を積極的に利用する。		
	学習指導	基礎学力の充実と学力の向上を図る。	①授業を大切にすることを醸成し、小テストや演習を通じて理解を深め、運用能力を養う。 ②進学講習や英検講習、その他検定・講習に取り組む生徒を増やす。目標を持ち、スモールステップを経て自学自習の質を高められるよう指導する。 ③模擬試験への準備や復習に積極的に取り組む意識を持たせ、学力定着に努める。		
	進路指導	奈良大学への進学者を増やす。進学実績の向上、生徒の適性に応じた進路実現をめざす。	①奈良大学ガイダンスやホームルーム活動、総合的な学習・探究の時間を通じて進学への意識を高め、早期に進路目標を持つための指導を行う。 ②進学講習や小論文講習、各種検定試験に取り組む生徒を増やし、入学試験でアドバンテージを持てる生徒を増やす。 ③生徒の適性・学力・志望に応じた個別指導を行う。		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A: 達成できている B: 概ね達成できている C: 少し課題を残している D: 課題を残している

部 名	評価項目	具体的目標	具体的方策(評価の指標)	評価	成果と課題
特進コース	学習指導	基礎学力の定着を図るとともに、受験に対応できる応用力の向上に努める。	①朝学習・NF実践・進学講習等を通して、勉強の仕方を指導し、学習習慣の定着を図る。		
			②小テストを実施し、学習内容の定着確認を行う。		
			③生徒の到達度に応じて、使用教材を工夫する。		
			④定期考査や模試を十分に活用し、実践力を養う。		
特進コース	進学指導	生徒一人ひとりの夢の実現に向けて尽力し、進学実績の向上を図る。 (合格目標:国公立大学8名・関関同立10名)	①コース会議・教科担当者会議を通じて、個々の生徒に関する情報を共有し、日々の教育活動に活かす。		
			②生徒の学力・志望に応じて個別指導を行う。		
			③クラス編成のあり方を再考し、生徒の力を伸ばすためにできるだけ効率のよい方策を考え、実施する。		
			④コース集会を学期に一度行い、受験勉強に対するモチベーションのアップを図る。		
特進コース	生徒指導	配慮の必要な生徒に対して、養護教諭・カウンセラーとも連携しながらサポートする。	⑤受験で有利になる英語検定2級に合格するまで、対策講座を実施し、全員受検させる。		
			コース会議・教科担当者会議を随時開いて情報交換することによって、教員間で共通理解・共通認識を持つように努める。		
			①研修旅行の事前指導として、グループでの研究・発表を通してオーストラリアについて主体的に学び、情報を共有する。		
			②研修旅行委員を中心に、「キャンベラ・奈良キャンドルフェスティバル」での発表内容を検討し、パフォーマンスの練習を行う。		
特進コース	国際交流	オーストラリア語学研修旅行を充実させることにより、グローバルな人材の育成をめざす。	③交流先であるキャンベラの学校が来校した際、積極的に交流活動を行う。		
			④夏期休業中に、外国人講師を招いて、研修旅行を想定した英会話授業を実施する。		
			⑤研修旅行の事後指導として、各自設定したテーマに基づく「レポート集」を作成する。		

【項目ごとの評価】学校自己評価 A：達成できている B：概ね達成できている C：少し課題を残している D：課題を残している